

特別ニーズ防災教育のこれまでとこれから —ポストコロナを見据えた特別支援学校における防災教育の課題—

企画者	富永 光昭（大阪教育大学）
	大崎 博史（国立特別支援教育総合研究所）
	長澤 洋信（四天王寺大学）
司会者	長澤 洋信（四天王寺大学）
話題提供者	宮本 朋子（京都府立向日が丘支援学校）
	滑川 真衣（東京都立青峰学園）
	松原 勝己（岐阜県立大垣特別支援学校）
	山本 隆史（元岐阜県立大垣特別支援学校 現岐阜県立中濃特別支援学校）
指定討論者	富永 光昭（大阪教育大学）
	大崎 博史（国立特別支援教育総合研究所）
	楠見 友輔（立教大学・日本学術振興会特別研究員）

KEY WORDS： 特別ニーズ防災教育， 特別支援学校， COVID-19， 新しい生活様式， ポストコロナ

【企画趣旨】

これまで、日本特殊教育学会において、「テーマ：インクルーシブ防災と教育のこれから-共生社会における防災と教育について、地域及び教育現場が担うべき役割を検討する-」、「テーマ：インクルーシブ防災と教育のこれから(2)-特別支援学校のセンター的機能の可能性を考える-」のシンポジウムを重ねてきた。本シンポジウムでは、自然災害のみならず、原子力被害、COVID-19 等の感染症への対応等も広く防災及び防災教育に加えるとともに、新たに「特別ニーズ防災教育」、「インクルーシブ防災教育」の捉え方を示し、COVID-19 感染症パンデミック（コロナ禍）により大きな影響を受けた特別支援学校の教育の現状と課題について討論していきたい。その際、コロナ禍の中「新しい生活様式」への対応を迫られた特別支援学校の実践事例について話題提供して頂き、「ポストコロナを見据えたデイサービス等関係機関・地域社会との連携」、「ポストコロナを見据えた特別支援学校の ICT の活用」、「ポストコロナを見据えた特別支援学校の防災教育」を柱に、ポストコロナを見据え特別支援学校における防災教育のあり方について検討を加えたい。

【話題提供者の趣旨】

1) コロナ禍の地域社会との連携《京都府立向日が丘支援学校》

176 名の児童生徒が在籍する本校では、共生社会の形成への貢献をめざして、日々の教育活動に取り組んでいる。COVID-19 感染症パンデミック（コロナ禍）における対応等も広く防災として捉える視点から、対策を工夫しながら地域社会との連携協働を模索した高等部の作業学習を中心に話題提供する。また、ポストコロナ社会を見据えた特別支援学校における新しい生活様式への課題や展望についても提言する。

2) コロナ禍の ICT の活用《東京都立青峰学園》

本校は、東京都青梅市にある肢体不自由教育部門（小学部、中学部、高等部普通科）、知的障害教育部門（高等部就業技術科）2つの部門を併置した特別支援学校である。GIGA スクール構想により、一人一台のタブレット端末や高速ネットワーク回線が整備された。主に Microsoft Teams を活用した実践を積み重ね、成果をホームページや SNS で積極的に発信している。コロナ禍においても、主体的・対話的で深い学びを諦めなかった本校の取り組みについて話題提供する。

3) コロナ禍の防災教育《岐阜県立大垣特別支援学校》

当校は、254 名の児童生徒が在籍する、知的障害、肢体不自由、病弱を対象とした特別支援学校である。これまで、学校、家庭、地域を一つの輪と捉え、個々の防災力を高めることで、防災力の輪を強化し、災害発生時に、命を守り切ることができるよう取り組んできた。この実践について話題提供するとともに、コロナ禍で実践できなかったことや新たな取組についても紹介したい。

【指定討論者の趣旨】

《富永光昭》

英語表記も含め「特別ニーズ防災教育」、「インクルーシブ防災教育」等の用語について規定した後、ポストコロナを見据えた特別ニーズ防災教育の課題について、①「新しい生活様式」等の影響によるポストコロナを見据えた地域社会・関係機関との連携の再考、②「新しい生活様式」等の影響によるポストコロナを見据えた学校教育体制の再考、③「新しい生活様式」等の影響によるポストコロナを見据えた ICT 活用の再考、④「新しい生活様式」等の影響による授業の再考、⑤「新しい生活様式」等の影響による防災教育の地域社会との連携・学校教育体制・授業の再考、の論点を提起する。

《大崎博史》

COVID-19 パンデミックは、今までの学校と関係機関、地域社会との連携に大きな影響を与えている。とりわけ、児童生徒の学校以外の場所での感染症対策に関する取組の工夫、災害時対応も含む地域社会との連携の在り方等について、各学校において課題となっている点や工夫している点について問いたい。

《楠見友輔》

学校の ICT 化は「ICT 教育」「教材・教具としての ICT 利用」「校務の情報化」の 3 つの側面に分けられ、特別支援教育においてはこれに「支援技術としての活用」を加える必要がある。COVID-19 パンデミックにおける休校期間と再開後における、以上 4 つの側面における各校の ICT 利用について、その質を踏まえて、実践状況と課題を問いたい。

本シンポジウムは「JSPS 科研費 20K03046（研究代表：富永光昭）」の助成を受けたものである。
(TOMINAGA Mitsuaki, Osaki Hiroshi, NAGASAWA Hironobu, MIYAMOTO Tomoko, NAMEKAWA Mai, MATSUBARA Katsuki, YAMAMOTO Takashi, KUSUMI Yusuke)